

平成26年度 第8回 「宇都宮市子ども・子育て会議」 議事録

1. 日 時 平成27年2月3日(火) 午後2時30分～午後3時45分
2. 場 所 宇都宮市役所 14階 14大会議室
3. 協 議 (1)「宮っこ 子育て・子育て応援プラン(後期計画)」(素案)について
4. 出席者
 - 【委 員】伊達悦子会長, 岡地和男副会長, 柳沼淳子委員, 栗田幹晴委員, 福田清美委員, 今井政範委員, 石川英子委員, 國吉眞理子委員, 上澤久子委員, 今井恭男委員, 鎌倉三郎委員, 倉益章委員, 坂本保夫委員, 加藤邦子委員, 保坂寿委員, 立原新委員, 大橋純子委員, 林昌宏委員
 - 【事 務 局】〔子ども部〕高橋部長, 中里次長
〔子ども未来課〕緒方課長, 篠崎課長補佐, 塚田所長, 肝付総括主査, 高橋主任, 緑川主事
〔子ども家庭課〕大久保課長, 大島室長, 根岸係長
〔保育課〕大根田課長, 久保総括主査
〔子ども発達センター〕谷田部所長
5. 公開・非公開の別 公開
6. 傍聴者数 0名

発言者	内 容
会長	<p>1 開会 会議の公開について決定</p> <p>2 議事 (1)「宮っこ 子育て・子育て応援プラン（後期計画）」（素案）について（以下、「後期計画」という。）</p> <p>（事務局説明）</p> <p>確認事項・質問意見はあるか。</p>
委員	<p>資料1－2の資料では、ライフステージごとに妊娠・出産期から青年期まで切れ目のない施策事業が例示されており、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進していることが分かりやすい。</p>
委員	<p>資料3のP49，P50「次代の親の育成プロジェクト」について、この後期計画の対象とする年齢はおおむね30歳までと認識しているが、晩婚化傾向が進んでいる中、次代の親の年齢は30歳以上になることもあると思うが、対象年齢はおおむね30歳ということで良いか。</p> <p>また、資料1－2の「ライフステージごとの施策事業」のところに、結婚に関する施策や次代の親の育成に関する施策も含めたほうが良いのではないか。</p> <p>最後に、資料3のP49，P50に「子育て支援」と記載しているが、「子育て支援」というと主体は子どもになるため、次代の親の育成プロジェクトの項目では「子育て支援」とは別の位置づけが必要なのではないか。</p>
事務局	<p>1点目の後期計画の対象年齢について、おおむね対象は30歳未満ということで法令などに基づいている。女性は39歳までにおおよそ95パーセントの人が子どもを産んでおり、40歳以降になると数パーセントしか産んでいない状況である。妊娠や出産に関しては、そういった年齢の幅を考慮して施策を実施していく。また、青少年の自立支援にも同じことが言え、ニートや引きこもりについては、年々高齢化している状況である。支援する年齢に関しては柔軟に対応できるよう、30歳以上についても検討していく。</p>

事務局	<p>2点目のライフステージごとの施策事業について、資料1-2については主な施策の一部を掲載しており、詳しくは本資料のP93が推進体制、P94からがライフステージごとの施策事業の掲載である。ライフステージごとに多くの事業を準備している。</p> <p>これら多くの施策を、市民の方に分かりやすくご理解いただくということが重要であると考えている。今後、この後期計画の概要版やPRとして予定している広報紙における特集など、様々な広報を考えているので、このような盛りだくさんの事業をいかに市民の方にご理解いただくかという工夫は、子ども・子育て会議等でもご意見を頂きながら進めていきたい。</p> <p>3点目のご指摘については、それぞれのリーディングプロジェクトの目的に応じて表現を工夫し、子育て支援等の内容を的確に伝えられるようにしていきたい。</p>
委員	<p>資料1-2「基本理念が実現された姿」として、国民の結婚、出生に関する希望がすべてかなった場合の合計特殊出生率の水準が1.75になるとのことだが、希望がかなった姿とはどのようなことなのか。また、この数字は宇都宮市の数値なのか。</p>
事務局	<p>希望がかなった姿とは、「結婚している夫婦が持ちたいと思っている子どもの数」、「未婚の方がどれだけ結婚したいと思っているのかの割合」、「結婚した場合にどれだけ子どもを持ちたいかの割合」を用いて、合計特殊出生率を導き出した数字である。</p> <p>国の方針では1.80を目標値としているが、これは「平成42年頃までに1.80を満たせば、将来的には1億人の人口規模を維持できる」としているところである。そのため、この後期計画では平成31年に1.75としており、この1.75が平成31年にかなうように施策等を推進していけば、平成42年には国の試算した1.80を達成できると推計している。</p>
委員	<p>資料1-2では「国民」と記載されているが、宇都宮市の基本理念であるから、「市民」の結婚、出生に関する希望がすべてかなった場合、宇都宮市の合計特殊出生率は平成31年で1.75になるということか。</p>
事務局	<p>「国民」という考え方を、「市民」に当てはめて考えたところである。この後期計画は市の計画であるため表現を分かりやすくしたいと思う。</p>

委員	<p>資料1-3「Ⅱ結婚・妊娠・出産や子育ての希望がかなえられる社会の実現」の施策事業である「教育・保育施設による供給体制の確保」は「拡充」で重点事業、「地域型保育事業による供給体制の確保」は「新規」で重点事業になっているが、「保育士確保の推進」については重点事業になっていない。</p> <p>供給体制の確保も大切だが、供給体制を確保するための課題は保育士の確保であると思うが、「保育士確保の推進」がなぜ重点事業になっていないのか。</p>
事務局	<p>供給量を拡大するのであれば、それを担う人材の確保も重要であると認識している。</p> <p>後期計画の中で重点事業に位置づけるときのルールとして、計画の評価と連動させており、子育て等の希望の実現に向けての取組と施策の進捗を評価していくために、「供給量」を重点事業に位置づけた。</p> <p>認識としては保育士の確保は重要な事業であり、市の施策の中でも強化して取り組んでいかなければならないと考えている。</p>
事務局	<p>国においても「保育士確保プラン」が公表され、平成29年度末までに、全国的に平均6万9千人の保育士が必要であるとされている。後期計画の標記では重点事業になっていないが、供給量の確保とともに人材の確保も重要であると考えているので各種取組を行なっていきたい。</p>
委員	<p>重点事業の考え方は、私達には分かりづらい部分であるが、施策が公表になったときに、一般市民や保育関係者に対して、市で「保育士の確保」に力を入れていることを示すためにも、重点事業にしたかどうか。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
会長	<p>昭和40年代後半から50年代には「ポストの数ほど保育所を」というスローガンのもと全国的に保育所作りに取り組んだ。</p> <p>そのために保育士の養成校を作り、その養成校は競争率が高かったにも関わらず人材が集まってきたのは、保育士になれば返還が免除される奨学金の貸付金制度を行なっていたからである。看護師は同様の奨学金の貸付金制度を今も続けている。それ以外でも病院単位で貸付制度を行なっているところもある。</p>

	何らかの形で人材を確保する取り組みを行なうと良い。
委員	後期計画における、重点事業の評価は行政だけで評価するものなのか。
事務局	計画の評価の仕組みについては、重点事業の評価のほか、市民の意識調査なども活用しており、市民の意見も反映した評価を行う。
委員	今後もこの後期計画を評価する時には、子ども・子育て会議などの外部機関や市民の意見を考慮し、あらゆる角度から評価して欲しい。
事務局	来年度から、子ども・子育て会議にこの後期計画の進捗や評価について報告し、意見を伺いたいと考えている。
委員	子育て支援施策が十分な効果を果たしているかどうかは、重点事業の数値目標などの数値だけでは分からない部分もあると思うので、色々な人の意見を踏まえて評価するべきである。
事務局	委員ご指摘のとおり、数値だけで施策事業等の効果を全て把握できるものではないため、後期計画の策定にあたり、子ども・子育て会議などでも様々な意見を頂いているので、そういったものも反映させていきたいと思う。
委員	資料1-3「Ⅱ結婚・妊娠・出産や子育ての希望がかなえられる社会の実現」の成果指標である育児休業の取得率について、女性の目標値が100パーセントというのは妥当か。平成24年の取得率が102.8%と100%を超えていることについて、事務局の説明では本資料P34に詳細が記載されているとのことだが、育児休業を取得する前年に出産し、産後休暇から継続して育児休業を取得すれば、その取得率は傾向的に100%を超えるのではないか。 毎年出生数が減る中で、男性、女性問わず、産んだ子どもに対して育児休業を取得したどうかの目標値を設定した方が良いのではないか。
事務局	育児休業に係る調査で正確な数値を把握可能と考えているため、次回の調査のときには設問を十分に工夫したいと考えている。
委員	本市で行なう調査ということで良いか。

事務局	<p>本市と宇都宮商工会議所，うつのみや市商工会が合同で3年に1度行なう調査である。</p> <p>3 その他</p> <p>(事務局説明)</p>
会長	<p>その他，質問意見はあるか。</p> <p>4 閉会</p>
会長	<p>以上で，第8回宇都宮市子ども・子育て会議を終了する。</p>